

新たな市政運営の総合的な指針策定検討委員会

## 藤沢の目指す将来像に関する意見提案

将来像として、藤沢をどのようなまちにしたいと考えますか。

- 1 市民の感覚，感情に帰結する将来像が多いです。
- 2 複数の要素で将来像を表現されているご意見が多いです。

### キーワード

- 居住環境，生活基盤，交通，産業，商業，歴史，芸術文化，娯楽，仕事，自然環境，災害に強い，犯罪がおきにくい
  - 子ども，高齢者
  - コミュニケーション，ネットワーク，マルチパートナーシップ
  - 元気，活力，ぬくもり，人情
  - 郷土愛，「藤沢が大好き」，安全，安心，幸福，満足，「住んで良かった！」
- 高齢者や女性の社会参加を支援する居住環境，生活インフラ（都心居住，公共交通機関の活用，バリアフリー化）の整備されたまち
  - 産業や生活基盤を支える都市拠点間を結ぶ交通ネットワークの構築されたまち
  - 藤沢市に住んでいる市民一人ひとりが，「藤沢が大好きだ」といえるようなまち
    - 多くの市民が集え，商業，芸術文化，娯楽，仕事などがそれぞれ関わりを持ち，交流し，賑わいのある魅力的なものが溢れるまち
  - 誰もが生きがいと幸せを感じながら，安心して暮らせるまち
    - 市民協働などによりまちづくりを進め，元気，活力，ぬくもりや人情のある，しかも将来に渡って不安なく生活ができるまち
  - 赤ちゃんからお年寄りまでが安全・安心で暮らしやすい藤沢市，市民が満足して幸福感を得られる藤沢市を築きたいと考えています。
  - 各世代が「住んで良かった！」と思える実感がもてるまち
    - 近年，自治会への加入を拒み，また隣人との付き合いは稀薄となり，その

ような中で個々の生活が営まれている状況から、多様性に富んだ地域形成の中でそこに住まう人が自分らしく関わりあいが持て、また、行政との真のコミュニケーションが保てるまち

○ ふじさわのまちを見つめ直す

➤ 海と自然に囲まれた気候温暖な素晴らしい自然環境と、歴史と文化を見つめ直し思う存分に満喫できるまちに。また、藤沢を訪れる人が駅に降り立った時、優しい、穏やかな息吹が感じられるまち

○ 藤沢市の「将来像」については、すでに平成24年度及び平成25年度の施政方針の中で次のとおり示されていますので、これを基本に表現すべきと考えます。

➤ 将来像＝市民が安心して暮らせる「郷土愛あふれる藤沢」

➤ ビジョン＝①「法とモラルを守る藤沢」、②将来にわたって持続可能な「ずっと安心して暮らせる藤沢」、③「命を守り災害に強い藤沢」、④産業振興・地域活性化により再生する「いきいき働ける藤沢」、⑤「みんなにやさしい藤沢」※ なお、上記のうち(2)①「法とモラルを守る藤沢」は、「将来像」とやや意味合いが違うので、「ビジョン」から除外しても良いと考えます。

➤ 将来像については、ビジョンを、より分かりやすく具体的な表現で膨らませたものにしていくことが必要であると思います。

➤ それぞれのビジョンに係る課題や具体的な施策を挙げ、各課題や施策について、各課における計画等とも整合を図りながら、鈴木市政の考える「方向性」（「長期展望」だけでなく「中期展望」も含めて。）を示す必要があると思います。

○ 市民が誇りを持って郷土藤沢を愛し、幸せを感じられる、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち

➤ 健康で元気に働けるまち

➤ 誰もが親切で、きまりを守り、困ったときに助け合えるまち

➤ 歴史や文化、自然環境を大切にし、守っていけるまち

➤ 産業（商業・工業・農業・水産業・サービス業）がバランス良く栄え、発展できるまち

➤ 子どもたちが地域に生まれ、元気に育つまち

- ▶ 災害に強く、犯罪が起きにくい、安全で安心して暮らせるまち
- 自然と文化がシンクロし、住んで楽しい、訪れて楽しいまち
  - ▶ 自然には地産地消も含み、文化には藤沢ならではの街並みや歴史を含みます。これまでも言われてきた南北縦断の地域資源を活かした観光の実現。特に北部の特産品を活かしたスイーツや花の名所などによって、山ガールのように目的を持った女性グループなどを呼び込み、様々な年代が様々な地域で楽しめる藤沢にしていきます。
- 地域の活力を高め、健康で健全に暮らせるまち
  - ▶ 心身ともに健康で互いに支えあって生活していくことは日常の基本であり、こうしたことから隣近所の挨拶や地域の連携も生まれてくるものと思われれます。このことによって、近年低下している地域コミュニティの活力を向上させます。
- 湘南の風土を活かし、新たな都市形態を目指すまち
  - ▶ 神奈川県は国内でも自立した自治体が多く、県や国との関係など都市制度のあり方について先進的な考え方を取り込める地域であるが、同時に市民も様々な意見をもっていると思われれます。まずは制度のあり方について研究を進め、当面は広域連携の拡充に取り組みます。(産・学・官連携やマルチパートナーシップなどの取り組みも都市形態という中に入れ込んでしまう)
- 子どもたちが夢を持って生きいきと暮らせるまち
  - ▶ 将来を担う子どもたちは宝であり財産です。そんな子どもたちが健全に育っていくためには、健全な地域・健全な行政・健全な教育が必要であり、東日本大震災後に絆の大切さが見直されている中、子どもたちが健やかに育つ環境整備を進めます。
- 藤沢のすばらしさを発信するまち
  - ▶ 本市は環境に恵まれ市民意識も高く、これまでも先進的な取り組みを進めてきています。イベントや制度の周知だけでなく藤沢の魅力や、行政では様々な場面で市の考え方や方向性などを積極的に発信していきます。
- 『他市の範となる基礎自治体に』
  - ▶ 本市においては2020年を人口のピークに全国他都市と同様に人口減少が進む中で、現在20%の65歳以上の高齢者が2030年には29%とな

り、14歳以下も14%から10%と少子高齢化が本格化することが予測されています。また労働者年令人口が大都市に集中することにより、労働・資金・資源の都市集中といった社会構造が今まで以上に拍車がかかると考えられます。本市の将来像としては、都市一極集中が進みまた道州制議論が進む中で、首都圏内に所在する自然豊かな都市であるという地の利を生かして、少子高齢化社会に対応した「職と快適な居住環境が整う都市」を目指していくべきと考えます。

- 社会生活を営む上で必要な施設が、身近に存在することができるまち
  - 少子高齢者社会の到来により、活動範囲が狭くても日常生活に必要な利便施設が適切に配置され、移動を補助する基盤施設や交通手段が備わったまち
- 心豊かな人が集うまち
  - 貧しい時代に存在した、相互扶助の感性が根付き近所付き合いが出来るような心豊かな人が普通に住み、産み育てたいと感じるまち
- 災害に備えた、安心で心強いまち
  - 災害時においても、安心して移動、居住できる施設と支える人が住むまち
- 市民の多様な生活形態に応えるサービスにより若者や高齢者を活動的に元気になるまち
  - 成熟した都市として、人口減少と少子高齢化の進行にあわせ、マルチパートナシップによるサービスが市民生活の暮らしをさらに安定させ豊かにし、それにより市民が人生の目標を持ち、活動し元気になれるまち
- 子ども達の笑顔があふれるまち
  - 子育て支援の充実と学校教育の充実、さらに若者が集う条件整備をおこなひ、子ども達の笑い声が響き、若者の活気にあふれ、少子化の時代でも安心して産み育てることができるまち
- 「平成版おらが学校」にみんなが集うまち
  - 小学校を地域の交流拠点として年齢層の違う住民が集い、地元の歴史文化を継承し、地域に根付いた新しいふるさとを作り続けるまち
- 人が元気・まちが元気・自然が元気・文化が元気～共創のまち ふじさわ～
  - 人とまち、人と人、人と自然、人と文化（歴史）のつながりを大切にしながらあらゆる元気を結集し、共に創りあげ、発展していくまち

- 湘南に輝き・栄え・伸びゆくまち～誇りと愛着のある私たちの藤沢～
  - 藤沢市歌に歌われている「わが藤沢市」を表す「輝きにおう」「栄えん常に」「伸びゆけ永久に」を理想として発展するまち
- 穏やかに、豊かな心で暮らせるまち
  - 技術革新等による生活を取り巻く環境が大きく変化し、生活の利便性、また、活動範囲は日々拡大している。行政サービスで味わった一定水準の生活環境は、行政が当然に維持し続けるものと市民は捉えており、少子高齢化等の社会変動が起こる中でも、それを意識した広域的な行政運営が可能となるまち作りが必要。
- 市民が安全・安心と暮らしやすさを実感できるまち
  - 超高齢社会が進行するなか、様々な社会環境の変化に対応するため、地域コミュニティを見直し・強化を図り安全・安心な生活環境が整備されたまち
- 自立と社会参加の意欲をもった市民があふれるまち
  - 市のかげがえのない財産である成熟した市民を育成するため、子ども・若者がいつも夢や希望を持ちながら、学びあう力を身につけ将来進んで地域社会づくりに参画するひとが育つまち
- 共に支え合い、誰もが暮らしやすいまち
  - 地域社会の中で人々が互いに支え合い、子どもから高齢者まで、障がいのある人も暮らしやすさを感じるまち
- 住んでいることを幸せだと市民が実感できるまち
  - 多様な市民ニーズに対しバランスよく応え、市民の満足度が高いまち
- 豊かな生涯学習社会を形成し、湘南の多面的文化都市を創出するまち
  - 市内4大学などとも連携して、家庭教育、学校教育、社会教育が充実し、いつでもどこでも生涯学習や生涯スポーツなどが行われるとともに、地域コミュニティも発展し、湘南文化の情報発信拠点としてバランスのとれた多面的文化都市を創出するまち
- 高齢者が元気で暮らしやすいまち
  - 高齢者の就労支援やボランティア等の活動拠点の整備、バス路線の充実などをすすめる、市内4大学との連携により、学ぶ機会を拡大するなど、高齢者がいきいきと暮らせるまち

- 循環型社会の形成や、みどりの保全など、豊かな環境を創るまち
  - 廃棄物の資源化がさらに促進され、三大谷戸の保全やビオトープネットワークが形成されるなど、豊かな環境を創るまち
- エネルギーの地産地消や有効活用をすすめるまち
  - 公共施設で発電したエネルギーを地域で消費する地産地消費システムを構築するとともに、災害時の避難場所のエネルギーとしての活用を図るなど、再生可能エネルギーの有効活用をすすめるまち
- 産業が発展し、雇用が創出されるなど、地域経済の循環が図られるまち
  - 市内企業、名産品などの知名度を高めるとともに、新たな産業を育成し、雇用が創出されるなど、地域経済の循環が図られるまち
- 地域ぐるみで子ども達を安心・安全に育むまち
  - 少子高齢化を踏まえ、今後増え続ける高齢者の参加を促し、行政と市民がパートナーシップをもって未来を担う子ども達を地域全体で育むことができるまち
- 地震・津波災害の対策が充実した安心して暮らせるまち
  - 海浜地区を有する本市の特性を踏まえた地震・津波の災害対策に備えた避難施設、避難路等の施設等の整備が充実した不安がなく安心して暮らせるまち
- 多種多様な災害に迅速、的確に対応する安全・安心なまち
  - 近年、都市の社会構造の変化に伴い、各種災害の大規模化や複雑化が進むとともに、高齢化による救急需要の増加など、消防を始めとした消防防災行政に対する新たな期待やニーズが高まっているなか、市の消防防災力を最大限に発揮し、市民の生命・身体・財産を守ることができるまち
- 防災関係機関との連携強化による災害に強いまち
  - 市長部局内は勿論、市全体の消防防災体制の整備及び確立を図るためには、防災関係機関等との連携強化による防災対応に特化したまち
- 人々が支え合うまち
  - 子どもから高齢者まで心豊かに安心して生活ができ、思いやりの心を持って互いに支え合うことができるまち
- 心の優しい人間が育つまち（人権を大切に「人権文化」を育むまち）

➤ 殺伐とした事件や犯罪が起きる中，安全で安心なまちづくりのためにも，  
まず藤沢に住み暮らす人が互いに人権を尊重し人権文化を育むまち

- 豊かな自然に囲まれ，横浜や東京との程よい距離により，時代の最先端を感じ  
またその恩恵を享受できることなど，この街は恵まれた環境にあると思う。そ  
うした意味で，街づくりの課題は様々あるが，将来像のイメージは「この環境  
を活かせる街」であることを第一としたい。そのためには，街が適度な成長を  
続けられることが必要であり，10年後前後に本格化すると想定される人口減  
少を，一定程度補える範囲で，若い世代が訪れ住まいとして選択いただける街  
となること展望すると，キーワードは，「子育て」，「女性の視点」にあると考  
える。



## 藤沢市歌

鈴木政輝 詩 米山正夫 曲

松風に 歴史徳 (1) の べば  
かざね来 (2) し 代々も親しく  
平和なり われらが街 (3) また  
繁栄の 日々にあらたに  
みなぎるは 文化の光  
輝きにはよ わが藤沢市

新瀬の 香にたつどろ  
はるかなる 富士は微笑み  
観光の 四季の絵巻に  
幸つきず 二瀬南は  
人の和も うるはし染し  
さかえむ常に わが藤沢市

虹高く 霞 (いらか) は映えて  
築くべし 理想の市政  
鳴りわたる 希望の鐘は  
躍進の しらべと呼びて  
産業の 息吹は若し  
伸びゆけ永久に わが藤沢市

(1950年 (昭和25年) 10月1日制定)

## 藤沢市歌

鈴木政輝 詩  
米山正夫 曲

まに つ か ぜ に れ き し し の ベ ば  
に イ ジ た オ か ノ カ ニ タ ツ ト コ え ロ て

か さ ね こ し よ よ も し た し く  
ハ キ ル カ ナ シ フ ジ ハ ホ ホ シ エ ミ  
い

はずんで  
へい わ な り わ ら が ち た は ん え い の  
カ シ コ ウ ノ シ キ ぼ ノ エ マ ニ サ チ ツ キ ズ の  
なり わ た る き ぼ う の か ね は や く し ん の

ひ び に あ ら た に み な る は ぶ ん か かの  
コ シ ョ ベ シ ョ を ナ ハ て ト ノ ん ぎ る フ は モ ぶ ん か フ キ の シ は ひ タ の  
し ら シ ョ ベ シ ョ を ナ ハ て ト ノ ん ぎ る フ は モ ぶ ん か フ キ の シ は ひ タ の

り シ か が や き に お う わ が が ぶ じ さ わ し  
し サ の カ カ エ ン ツ オ ニ ワ フ ガ フ ジ サ ワ し  
し サ の カ カ エ ン ツ オ ニ ワ フ ガ フ ジ サ ワ し



# 藤沢市市民憲章

昭和39年7月1日

## 前文

わたくしたら藤沢市民は、藤沢市を豊かな明るく美しい産業、文化、観光都市とするために、市民ひとりひとりが守るべき規範として、ここに市民憲章を定めます。

## 本文

- 1 元気で働き、明るい家庭をつくりましょう。
- 1 つねに健康な心とからだをきたえましょう。
  - 1 いつもだれにも親切にしましょう。
- 1 きまりをまもり良い風習をそだてましょう。
- 1 教養を深め、文化の高いまらとをきずきましょう。

【藤沢市の目指す将来像】

## 「行動力ある藤沢！」

【藤沢市の長期展望】

子供たちへの危機管理に対する教育を推進する！

日本での子供たちへの防火・防災に関する教育は、昔から「火遊びは絶対にしてはいけません」という約束をさせた上で、「お・か・し」と良く教えたものです。

これは、避難する時に「押さない・かけない・しゃべらない」という意味です。

しかし、外国（先進国）における防火・防災教育は全く違うものであり、自分で自分の身を守れる子供にすることを目的に危機管理の教育が行われています。

これらの教育は、自分自身が生きていく上でいつ遭遇するか分からない危険を察知し、その危険に対してどう対処するか？どう行動していくか？ということを経験させるものです。

様々なケースを体験・教育していかないと、実際に体が動かないものです。例えて言うと、もしも自分自身が火災の当事者になり、服等に火が付いてしまった時はどうするか？人が倒れていて意識がなかった時どうする？等について教育するのです。

国内においても徐々にではありますが、子供が幼い時からこれらの教育をする動きがあります。

教育のプログラムについては  
別途作成する必要がありますが・・・

-理由-

少子高齢化の進むことが予想されている今、本市においても火災件数及び救急件数が相当増加することは免れない。（公には発言出来ないが、社会人のモラルの低下も著しい・・・）

全国の消防機関においては、日頃から「火災予防」、「救急車の適性利用」等に対する啓発活動を積極的に行っているところではありますが、この啓発活動は比較的「大人」を対象としているものが大半ですが、すでに社会人となった私たちにとって、「私が火災を起こすはずがない」であるとか、「救急車をタクシー代わりに利用する訳がない」等、消防機関が広報しているにもかかわらず、多くの方たちには恐らく素直に受け入れられていないことでしょう。

しかし、まだ幼い子どもたちは違います！！

とても純粋な気持ちを持っており、日頃から実施している消防訓練等で私たちが指導・訴えていることに対して、目をまん丸にして素直に聞き・受け入れてくれます。

今、私たちが子どもたちに対して、様々な危機管理（防火・防災に限らず）に対する教育を推進することにより、それらの教育を受けた子どもたちが大人になったとき、更にレベルの高い危機管理の考え方を持つこととなります。10年20年先、将来の藤沢市を担う子供たちへの投資をすることが、とても重要な課題であると考えています。

将来、これらの教育を受けた子供たちが大きくなった時、様々な場面において「行動力」を発揮し、活力ある藤沢になるものと考えます。

以 上

IV 「私たちの政府」が創るまじわりの未来

課題領域	(1) 地域自律型の「騰沢づくり」を育むまち	(2) 明日の「騰沢づくり」の子どもたちを育む環境	(3) 市民力・地域力による安心・安全な暮らし	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	(7) 「騰沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「騰沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出
(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安心)	1 身近な地域での暮らしやすさを高めていること	8 市民自ら、人によさしい手をささぐること	17 健康、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすくなっていること	24 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の質向上と環境保全の両方が実現していること	56 市民の財産である自然を守り、育てられていること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的で温かいまちであること
生活	2 市民が自慢できるまちであること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	19 災害に耐えて、市民が不安なく暮らせること	25 生活環境を守ること	36 誰もが快適に暮らせる、居心地のいいまちであること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	57 すべての世代がのびのびいきいきと活躍していること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設があること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること
	3 市民自らが騰沢を良くする活動に積極的であること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で誇らしげに暮らしていること	20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと	27 お互いの個性が尊重されていること	37 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	48 豊かな緑に囲まれた生活が実現していること	58 日常生活に安らや豊かさを与えてくれる場所があること	75 豊かな地域資源を宝に、美しい体験ができるまちであること	
(C) 持続的活動(伝える・維持する)	4 騰沢市で活用できる様々な資源を有効活用していること	11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること	21 市民が協力し、安心して住みやすいまちであること	28 地域のための一歩一歩に込められた思いが大切にされていること	38 イベントや物産品などの地域ブランドが定着していること	49 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	59 安全で安心な食・物が身近で得られること	76 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること	
活動	5 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること	29 いろいろな世代、いろいろな人が交流できること	30 お互いにマナーを守り協力して地域のために活動していること	50 市民の環境美化への意識を高める工夫がなされていること	60 市民の環境美化への意識が高く、快適なまちであること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	77 騰沢の魅力がメディアで発信されていること	
(D) 創進・推進活動(発展・チャレンジ)	6 誰もが気軽に市内の情報を発信したり、得ることができていること	13 地域が子どもを見守り育てる環境であること	22 様々な世代が、快適に暮らしていること	31 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	42 市民同士が協力し合いながら暮らしていること	52 県立自治体や他地域と連携した環境対策を進めていること	62 産業の活力を生かすこと	78 常により良い地域にしようとする意識が活発にされていること	
基礎	7 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	14 学校・家庭・地域が連携して育む活動が活発であること	23 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	32 人々が交流して、平和でゆくもりのある社会であること	43 子供が大人になって、もてる力を発揮できること	53 市民・地域が協力して持続可能な環境ができていくこと	63 地域の人材が働ける機会を創出すること	79 市民の意識が高く、市民参加型のまちづくりが盛んに行われていること	
	8 誰もが気軽に市内の情報を発信したり、得ることができていること	15 子どもたちが積極的に関与できる場が整備されていること	24 誰もが安心して暮らしていること	33 地域の中で学びあう機会があること	44 河川や海岸が市民に開かれていること	54 地球環境に優しい手段で移動できること	64 商店街と大規模店舗が共存共栄し、活気あるまちになること	80 市民と業防者が交流できる機会や場があること	
	9 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	16 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていくこと	25 誰もが安心して暮らしていること	34 地域で支え合い暮らせる環境があること	45 地域の未来の担い手が育成されていること	55 環境美化活動を支える仕組みがあること	65 市内の交通・物流がスムーズに行われること	81 地域の記憶や文化が継承され、発展すること	
	10 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	17 子どもたちが積極的に関与できる場が整備されていること	26 誰もが安心して暮らしていること	35 地域で支え合い暮らせる環境があること	46 地域の未来の担い手が育成されていること	56 環境美化活動を支える仕組みがあること	66 市内の交通・物流がスムーズに行われること	82 騰沢ならではの取り組みが実践されていること	
	11 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	18 子どもたちが積極的に関与できる場が整備されていること	27 誰もが安心して暮らしていること	36 地域で支え合い暮らせる環境があること	47 地域の未来の担い手が育成されていること	57 環境美化活動を支える仕組みがあること	67 市内の交通・物流がスムーズに行われること	83 子どもから大人まで、文化に触れる環境が整っていること	

表3 ふじさわ未来課題マトリックス(全市版)

① 協働型の課題解決で価値向上へ  
 重点・ふじさわ未来課題  
 ② 強みや魅力の維持・向上を  
 ③ より効果的に価値の維持を  
 ④ 熟慮と構築ある未来  
 戦略を